

大学の授業

期待と希望をもって入学された皆さんの多くは、初めて大学教育を受けられることとなります。大学教育では、自主的・主体的学習姿勢がとわれ、自分の意見を述べる機会も増えてきます。

たとえば、学期末に行われる試験においてはレポート（小論文）試験があったり、筆記試験でも「〇〇とは何か論ぜよ」という問題であったりします。ゼミ（少集団授業）では自分の意見を述べることが求められています。また、テキストがなく口頭で授業が進む科目もあります。このように、大学では高等学校までの教育とは異なってきます。

そこで、授業運営を中心に高等学校までと異なる点について触れたいと思います。以下、大学における授業について説明しますが、大学に入学されたばかりのあなた方にとってこれらの関係について一度に理解することは困難なことです。

これから行われる学科ガイダンスや教務課が行う履修指導等を通じ、各授業科目区分の意義や関連、個々の授業内容について理解し履修するよう心掛けてください。

大学の授業の構成

大学の授業は、基礎的教養教育を行う「基礎教育科目」と学科の専門教育を行う「専門教育科目」の2つに区分されます。これらが相俟って、学科の教育目標が達成されるように構成されています。

大学の授業と自主的な学習

大学の学修は、大学における授業と学生諸君の自主的な学習によって、成り立っています。したがって、授業で習い理解すればよいということだけにとどまらず、学習した内容を独自に深め「血となり肉とする」よう、学ぶことに対する自主的で主体的な姿勢が求められます。図書館を利用することやサークル・研究会等に積極的に参加することを通じ自学自習し、自らのなかに蓄積することがなければなりません。このことから、これまでは皆さんは「児童、生徒」と呼ばれていましたが、大学では「学生」と呼ばれ、「学習」も「学修」と表記されることもあります。

大学では学年制ではなく単位制

大学での学修は、各自の主体性に委ねて教育を行うことから、学修すべき最低学修量をきめた単位制を取っています。

高等学校までは、各学年の課程を修了しなければ進級・卒業ができないといった、「学年制」をとっています。大学では、学年配当された授業科目を修業年限（短期大学の場合2年間、大学の場合4年間）以上の在学中に大学が必修と定めた単位を含め（短期大学の場合62単位、大学の場合124単位）卒業要件単位以上の単位を取得すれば、卒業できる「単位制」をとってい

ます。

「単位」とは

単位とは、一つ一つの授業科目ごとに定められた学修に必要な時間を表したものです。

ある授業科目の単位を取得したということは、その授業科目に定められている所定時間を学修し、その試験において合格の判定を受けたことをいいます。

単位の計算

45 時間の学修をもって 1 単位とすることとなっています。つまり、1 単位に要する授業時間と自学自習の時間は、あわせて 45 時間となります。

授業科目の性格によっては、教室における授業時間と自学自習の時間の比率が異なります。学則で特別に定めた授業科目以外は、次の通り授業科目の性格ごとに授業時間と自学自習の時間の比率を定めています。

講義を主とする授業科目では、1 時間の教室での授業に対して 2 時間の自学自習を必要とするものとし、15 週の学修で 1 単位とすることとなっています。

講義と実習・実技が相半ばする演習科目では 2 時間の教室内の授業と 1 時間の時間の自学自習、実験・実技・実習を主とする授業科目では 3 時間の教室内の授業となります。

1 単位当たりの授業と自学自習の比率

授業の種別	授業を受ける時間	自学自習の時間
講義科目	毎週 1 時間 15 週	毎週 2 時間 15 週
演習科目	毎週 2 時間 15 週	毎週 1 時間 15 週
実技科目	毎週 3 時間 15 週	

なお、特例として卒業論文や修了研究等学修の成果をもって、所定の単位をあたえる授業科目もあります。

2 学期制

大学では、2 学期制を採っています。高等学校までは 3 学期制でしたが、1 年を 2 分割し 1 学期を「前期」、2 学期を「後期」と呼んでいます。

学則上、前期は 4 月 1 日から 9 月 30 日まで、後期は 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日となっています。前期と後期にそれぞれ 15 週、年間 30 週間授業が用意されています。

なお、毎年、祝日の関係で各曜日の開講時間数を保障する必要から実際の大学暦では、学期の始まりを多少前後させることがあります。

90分授業で1時限

高等学校までは、1時限を45分又は50分で1時間と換算され実施されていました。

ところが、大学では1時限の授業は90分（2時間換算）で行います。

入学と同時に1時限が2倍の長さになるため慣れるまでは大変ですが、まとまった授業が受けられるようになっています。

始業と終業の授業時間帯は次の通りです。

時 限	時 間 割
第1時限	9：00～10：30
第2時限	10：40～12：10
第3時限	13：10～14：40
第4時限	14：50～16：20
第5時限	16：30～18：00

履 修 登 録

大学における学修は、主体的なものですから、一人一人が学修目標を立て自らの意思のもと卒業要件単位以上の授業科目履修に加え、資格取得や教員免許状取得要件を勘案しながら、あらかじめ授業科目の履修登録をすることとなっています。

各学科の教育課程表には、必修科目と選択科目が指定され、各学年学期ごとに授業科目が配当されています。必修科目は卒業の要件となる授業科目です。この科目を含んで、選択科目を登録することとなります。

この冊子「履修の手引」の各要件や各授業のシラバスをよく読み、どの授業科目を履修するか学修計画を立て、所定の期間に「履修届票」をもって履修登録をします。

登録の無い授業科目や既に単位認定されている授業科目について履修していても、その履修は無効となります。また、登録後の変更は特別の事情の無い限り認めません。やむをえない事情で取り消す場合は、授業担当者の許可を得て各学期授業開始後6週間目までの期間に教務課へ「受講取消願」を提出してください。

履修登録に関して詳しくは各学科ごとに「履修ガイダンス」を行いますので、必ず出席し、担当者から指導を受けてください。

わからないことは曖昧にせず、ゼミの担当教員、各学科の教務委員、教務課担当者に相談してください。

単位認定と成績

登録した授業科目を履修し、その授業科目の試験において合格と判定された場合、所定の単位が認定されます。

大学における成績評価は、それぞれの担当教員が定める評価基準に到達しているかどうかを評価する「絶対評価」を採っています。

単位認定する場合の成績評価の基準は次の通りです。

評価の基準	成績評価	判定
100～90 点	秀 (AA)	合格
89～80 点	優(A)	
79～70 点	良(B)	
69～60 点	可(C)	
59～0 点	不可(F)	不合格

成績は成績通知表をもって、所定期間内に通知します。

成績通知表や個人時間割表は在学期間中は大切に保存し、卒業・資格・免許との関わりでどれだけ単位を取得したのか、取得できていないのはどの科目で何単位かを絶えず把握したうえで履修するように心掛けてください。

GPA制度と履修登録単位数の上限制度

GPAとは履修科目ごとの成績評価を 秀 (AA)、優 (A)、良(B)、可(C)、不可(F)の5段階評価対して4、3、2、1、0のグレード・ポイント(GP)を付与し、個々の履修科目のGPにそれぞれの単位数をかけ、その合計値を履修登録科目の総単位数で割った平均値を指します。履修登録取消期間までに取消申込をした場合には、その科目はWとして扱われ、GPAの算出対象になりませんが、無断で履修放棄をすると、その科目にはF評価となります。

各学科では学習効果を高めるために、セメスターごとに履修単位数を制限しています。学生が、1年間に履修登録できる単位数に関しては、前年度までのGPAに基づいて決めていますので「名古屋短期大学 GPA制度および履修登録単位数の上限制度に関する細則」を確認してください。

既修得単位等の認定

他の大学又は短期大学を卒業又は中途退学し、社会人入学（一般入学者選抜試験により入学した者を含む）、編・転入学等で入学した者が、在学中に取得した単位の一部について、本学において単位取得したものとみなすことがあります。

該当者は、成績（単位修得）証明書等を用意し、教務課担当者と履修登録時に相談してください。詳細は、「既修得単位の認定に関する規程」参照のこと。